

中国での生活

国際学部 国際文化学科 21014100 廣瀬拓未

私は入学当初、留学については全くと言っていいほど考えていませんでした。中国語を学んで行くうちに留学に対しての意識が高まっていきました。きっかけは些細なことで、中国がどういう国なのか自分の目で見てみたいと思い始めた事です。正直不安もありましたが、先輩方の留学での生活、体験談を聞くと行ってみたいと思うように。親元を離れ、生活の全てを自分一人でやる良いきっかけになると思い決断しました。親は留学には賛成していました。中国に行く前はトイレにトイレットペーパーが流すことが出来ないのかと半信半疑で行きました。日本では流すという習慣が当たり前なため、少し不思議で慣れるまでに時間がかかりました。中国は日本に比べて物価が安く、バス、電車、タクシーなどを使って行動しました。日用品は日本の物も売っており、心配ありませんでした。ほとんどの生活用品が現地調達出来ました。

私たちは8月30日に日本をでて、中国に着きました。悪天候のせいで何時間か到着が遅れました。寮に着いたのは24時頃だったと思います。まず中国に着いて思ったことは、空気が汚いこと。それは、飛行機から降りたときからすぐに分かりました。空気が汚いと聞いていましたがどれほどのものか想像もつきませんでした。寮に到着してから、自分の部屋がわかりました。中には、相部屋が外国人で先に到着していた人もいました。自分は外国人との相部屋でしたが、まだ来ておらず独り部屋でした。私たちの寮は食堂とスーパーから近くて良かったですが、授業をする教室からは遠かった。寮の中はとてもきれいでサービスの人が毎朝ゴミを集めにきてくれます。



一週間ほど経ってから相部屋のルーマニア人が来ました。自分の片言の英語と単語で伝えたいことを理解してくれてすぐに仲良くなりました。以前、日本語を勉強していたらしく少しだけでしたが話すことができました。最初は外国の人と一緒に生活するなんてどんなものか想像もつきませんでした。彼は自分を受け入れてくれて一緒に生活をしていて喧嘩などはありませんでした。しかし、自分の物干が半分使われていたり、トイレを流さなかったりいろいろと驚く事がありました。ちゃんと指摘すれば素直になおしてくれました。文化の違いは少なからずありましたが、お互い理解し受け入れ、共同生活をする事が出来ました。

中国に着き何日かするとクラス分けテストがありました。全くといっていいほど何も分かりませんでした。リスニングではいつ始まっていつ終わったのか分からない程でした。口頭試験で唯一聞き取れて言えたのが自分の名前、学校くらいでした。スーパーにいても何も聞き取れませんでした。ちゃんと聞き取れるのは「你好」などの挨拶程度でした。自分たちは来たばかりで、100元札しか持っておらずそれを出すと「チッ」と言われ小さいのではないの？と聞かれました。レジの人たちは皆やる気がないような感じ。それはどこのお店やスーパーに行っても同じでした。中国に来て一番最初に文化の違いを感じた出来事でした。他にも道端では男女問わず唾をはいたりしているのが見受けられました。また、当たり前のように赤信号でも横断する人、クラクションは町を出れば必ずと言っていい程鳴っていました。中国の交通ルールでは、赤信号でも右折が可能なので直進してくる車とぶつかりそうになったり、渋滞になったりしました。そういう点でも違いを感じました。



それから何日かして授業が始まりました。私たち国際情報の生徒はひとクラス3～5人で計3クラスに振り分けられました。先に授業を終えていた人の話を聞くとついていけない、何を

言っているか分からないと言っていました。実際自分も授業に出てみると周りとても差を感じました。日本でしている授業とはまるで違い、発言力もコミュニケーション能力も圧倒的に外国人の方が上でした。日本人は元々漢字をある程度知っており、書くことに対しては自信がありました。しかし、クラスのほとんどの人が漢字をかけていたことにびっくりしました。クラスには、デンマーク人、タイ人、韓国人、アメリカ人、フランス人などの国の人がいました。他の国の人たちは自分たちとは違い、半期一緒に勉強していました。なので、仲も良くコミュニケーションも取れていました。英語圏の方が多く中国語よりも英語での会話が多かった印象、そこで英語の必要性を感じました。授業中、先生はパワーポイント、黒板、資料などを使って授業を進めていました。最初は、先生の喋っていることが分からなかったので、パワーポイントや黒板をみて理解していました。最初はどこが大事かも分からず授業中はノートを取るの必死でした。中でも一番難しかった科目は、聴く授業です。いくら漢字がかけても聞き取れなくては意味がありません。また、日本人が一番苦手とする科目でもありました。勉強法はただひたすら CD を流して聞く事。耳を鳴らす事から始めました。先生から質問されても分からないことが多く、答えられないことがありました。初めは授業が苦痛で、朝起きたときから教室に向かう道までもが苦痛でした。先輩は2ヶ月くらい経つと先生の言っていることが聞き取れてきて生活にも慣れると言っていました。先輩の言っていた通り留学の半分くらい経った頃から徐々に聞き取ることが出来るようになりました。先生が話している事が理解できるようになると、授業も分かるように。

レストランでは、席に着くとすぐに店員さんが注文を聞きに来てなんだかせかされてるようでした。中国のお店では水が出てこないことにも驚きました。またお店によって出てくるお茶の種類も違うので色々な味のお茶を飲むことが出来ました。夕食は基本食堂や、近くのお店のチャーハンを食べていました。物価が安いので、一食1000円程（日本円で2000円程）で食べられました。日本食のお店もありましたが、お寿司の刺身があまり新鮮ではなく味は普通でした。日本食のお店は比較的高く、2000円程。ちょっと贅沢をするときに来る様なイメージのお店。



休日には、遺跡、世界文化遺産にも行ったりしました。西単という所には何度か行きました。そこは日本の東京で言うと原宿の様な所。一日いても十分楽しめる所。若者が多く、休日にはにぎわっています。中国は買い物で値段交渉は当たり前のことで、自分はいつも値段交渉をしていました。偽物の物が多いため、ブランドのロゴが入った物が安く手に入ります。公式のお店でも本当に本物なのといったくらい偽物が出回っていました。何個かお土産で購入しましたが、偽物という事もありすぐに壊れてしまいました。学校内や町では偽物の着ぐるみなどを着た人たちも見る事ができました。他にも、マラータンという所にも行きました。ビールが一本100円ととても安かったのを覚えています。串焼きも安く、一本40～50円くらい。

テスト後の休みには万里の長城にも行きました。万里の長城は写真やテレビで見る物とは迫力が違いました。途中から同じ道が永遠と続いており飽きてしまいましたが、一度は行きたかった所なのでとてもいい経験になりました。この行事は毎年あるので興味のある方はぜひ参加してみるといいと思います。



ま

た、北京師範大学の選抜チーム対留学生チームで行ったサッカーの試合に参加しました。留学生チームはガーナ、アメリカ、韓国、イタリアの人たちがいました。外国人とスポーツを一緒に出来たこともこの留学での収穫の一つでもあります。また、大学の中国人のチームに混ざって試合をしたりしました。



師

